

2014年度 李箱文学賞受賞作 ピョン・ヘヨンの「モンスーン」について

편혜영 略歴

1972年 ソウル生42、3歳

ソウル女子大学文芸創作科、漢陽大学国文学大学院卒業

2000年 ソウル新聞新春文芸に短編「이슬털기」が当選して登壇

小説集：『アオイガーデン』『飼育場のほうへ』『夜の求愛』

長篇小説：『灰と赤』『西方の森にいった』

韓国日報文学賞、李孝石文学賞、今日の若い芸術家賞、東仁文学賞

「モンスーン」の登場人物

ユジン

科学館勤務。出産して育児休暇をとったがちょっと留守にしている間に子供が窒息死し、体調をくずして休暇継続中。

テオ

もと電子製品会社に勤務していたが、子供が死んだあと退職して、倉庫会社に勤めた。このことを停電の直前にユジンに告白する。

科学館館長

50代半ば、面長で口元のひきしまった男性。英文専攻で、3年前に館長に就任し、定年まで15年。財団の縁故によって館長に任命されたい。

隣の女

子供がいて、ユジンに近くの小児科を紹介した。前回の停電時、何者かによってガラス窓に投石されている。

今夜、8時から10時まで、3棟のアパート全部が停電することが住民に通知された。2年連続して台風のたびに停電したことで電気設備に問題があることが判明し、このたび修理が終わったので最終点検のための停電が必要だということだった。説明のための公聴会が開かれたが、そこでは、作業のことより前回の停電のときに起きた投石事件が話題になった。

停電がはじまる直前、テオは退職のことをユジンに告げる。外出すると言っていたユジンは外出をとりやめ、かわりにテオが外に出る。

○ユジンが外出をやめたのは、テオが離職のことを告げたあとか、前か。答 前

○“집에 있었으면 좋겠어.”(15頁) 누가? =내가・당신이・우리가

○最初は停電のときに家に残って二人でいてもいいと思っていたテオは、なぜユジンが外出を取りやめたと聞いて、自分が外に出る気になったのか。(16頁)

答：そのまえにユジンが外出すると言っただけで出ばなをくじかれたので、対抗する心理から。

部屋の外に出ると隣の女性に会う。小児科を紹介してくれた女性だ。一緒にエレベータに乗りながら、テオは子供の死を告げた小児科医の胸ぐらをつかんだことを思い出す。彼はアパートの住民が自分にたいして悪意を抱いているという錯覚をうちけす。

(18頁)

★この錯覚は、自分が彼らにたいして抱いている悪意の「投影」作用ではないか。

自分がおこなった投石という行為への罪の意識からきている。

行くところもないテオは駅前の「ダンス」という店に入り、そこでユジンの勤務先の館長に遭遇し、いっしょに飲むことになる。(20-21頁)

館長はすぐに同席を後悔したらしく、最初の愛想の良さをなくしていく。

○태오와 합석한 길 후회하는 눈치였다. (22頁)

○점점 말수가 줄었다. (同)

○처음의 친절한 미소는 자취를 감추었다. (23頁)

一方、テオはしだいに以前からの疑問をふくらませていく。

○관장은 제대로 알고 있었다. 태오가 그런 말(술을 안 좋아한다)을 한 적은 없지만.

○이런 질문의 의도쯤은 알 것 같았다.=ユジンが自分のことを話しているかを探るための質問だと勘ぐっている。

○추측에서 비롯된 **의심**과 그로 인한 **질망**의 강도가 높아졌다. (26頁)

見える物(展示)の不確実性、証明不可能性に関する館長とユジンの言葉

1. 館長の口を通したユジンの言葉 (25頁)

○少なくとも展示においては、再現できない科学は科学ではありません。ユジンさんもそう言っていました。「証明できないものは無用です」断固としてね。でもすぐに付け加えましたよ。「だけど世界はそんなものでいっぱいです。確実なものとして証明できるものはありません」

2. 館長自身の言葉 (同)

○展示が特にそうですよ。少なくとも展示においては、形象化が不可能なものは科学ではないのですから。形象化されたものだって、よく見れば想像と推測である場合が多いですしね」

テオが電子製品会社をやめた理由は、意地悪な上司にたいして自分が何をしでかすか怖くなったからだった。

○理解するよりは、腹を立て憤怒するほうが容易だ。(26頁)

★テオはユジンを理解するのではなく、彼女に腹を立てることで悲しみを乗り越えようとしている。その怒りをかきたてる手段が上司だった。

ユジンへの怒りの理由

1. 子供の寝顔を見ていた表情。(26頁) 사랑이 없다/당황스럽다
2. 子供ができたときに失敗だと言った。(同)
3. 子供のために疲れてうつ病になったのに、それを認めなかった。(27頁)

○小児科での먹살을 잡은 이야기는子供の死ぬ前か？

答 はっきりしない。

胸ぐらをつかんだのは子供が死んだときで、そのためアパートに悪い
うわさが立ち、それで投石をした、ということになるらしいが、い
くら読んでもこの部分はつじつまが合わない。**悪文**

「その日」あったことをテオは知らないまま生きている。(27頁)

知ってはいけないこともあると考えている。(同)

だが、ユジンが自分に食事を勧め、いつまで悲しんでいるのという表情で自分をみつ
め、保険証券をよこすとき、「確信」をもってしまう。(28頁)

★ここまで読むと、テオは、ユジンを疑って腹を立てながらも、その怒りを抑え、これ
以上追いつめず知らないままにしようとする優しい夫に見える。ところが……

館長を見ていてテオは突然怒りがわいたが押えた。そのとき館長がモンスーンの話
をする。ユジンは、モンスーンのように大きな風はいつ方向を変えるか、その瞬間を前も
って知ることができないと言ったという。(28～29頁)

突然テオが「ここに来たことがあります」と言う。

★いきなりモンスーンが風向きを変えた。

つづいて「妻もここに来たことがあります。子供を一人で寝かして」と言う。

★モンスーンがどんどん風向きを変えている。

テオの回想によって、その日起きた出来事の前半が明らかになる。(29～30頁)

「その日、ここに来たでしょう。子供が死んだ日に」とテオが館長に尋ねる。(30
頁) ★モンスーンが完全に風向きを変えたのだ。彼はとうとう疑問を口にした。

テオの回想のつづきで、その日起きた出来事の後半が明らかになる。(30頁)

予想通り、テオの質問を館長は否定する。館長は科学館で働いて得た認識を述べる。

○「断定し、確信し、理解できることは多くはありません。」(31頁)

○「人生は科学以上ですから」(同)

突然、館長は立ち上がって出て行ってしまった。(同)

★本文にはないが、このときテオは彼に事実を告白し、それで館長は突然立ち上がって(支払いもしないで)憤然と出て行ってしまったのだと思われる。

生きている子供を最後に見たのはテオだった。それも窒息死の原因になる寝返りも見ていた。だが彼はその事実をユジンに話さないまま、ユジンを責めている。ユジンの言葉を信じないふりをし、ふりをするどころか、ユジンが殺したとささやく周りの噂を利用して、それが事実だと思いこもうとしていたのだ。(32-33頁)

★ユジンにこのことを話すべきだと、テオは思い悩む。

光量の差：自分は明るい安全圏。ユジンは世間からも誤解を受けて暗いところにいる。

○그래도 아직 어둡었으니 그리로 가보기로 마음먹었다. 어둠 덕분이었다. 마주 보는 가운데 오가는 침묵을 견디지 않아도 되고 유진의 눈에 떠오를 당혹감이나 의구심을 확인하지 않을 수 있을 것이다.

★<떠오를 당혹감><하지 않을 수 있을 것>と未来連体形になっていることに注意。これはこれから起きようとしていることである。

だがテオが家に行こうとしたまさにそのとき、停電が終わってしまった。

○明るい光の下では何も言えないように思われる。(34頁)

○光がテオの無益で取り返しのつかない失敗を防いでくれた。(同)

★テオの告白は「無益で取り返しのつかない失敗」になるはずだったが、光がそれを防いでくれた。彼はこのあとも事実を語らず、それどころか、事実そのものを忘れてユジンに罪を着せ、彼女に怒り、彼女を責めながら生きていこう。

○예고된 시간이 지난 후에도 몇번인가 그런 일이 더 일어났다. これは余韻?

★これからも、今日のように告白しようと思っではやはりできないということが繰り返されることを暗示している。

感想：人間の存在と関係、事実、すべてが<想像と推測>であり不確実であることを描いている。しかし、それが恐怖感につながっていかない。よく構想されているが、少々図式的で複雑すぎて作品の世界を楽しむ余裕がもてない。昨年候補作の「밤의 마침」の方が優れていると思うが受賞は時の運だから仕方ない。